

第6回講座

自然観察について

2021/6/20

NPO法人日本パークレンジャー協会



1. 自然観察とは

自然を細かく見て「本質・真理」を「察する=知る」

「見る」:眺める、目で存在をとらえる、視覚に入れてみる

「視る」:視覚に入れてみる

「観る」:細かく見る、本質を見る

「診る」:診断する

「看る」:面倒をみる、

2. 五感でものを見る

1) 五官 : 人間が持つ五つの感覚器官

目、耳、鼻、舌、皮膚

2) 五感 : 五官の持つ情報感覚

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚

* 動物は周りの状況を知ろうとするとき自分の五感をフルに働かせてそれを見ようとする

例: 敵か仲間か/安全かどうか/食べものか/求愛...

* 五感で感じてもの(自然)を見れば 知識ではなく体でそのもの知ることができる

五感で感じて体で覚えたことは記憶に残る

3. (森の)色々な自然を見る

1) 遠くから(森)全体を見る

- * どんな地形? どんな色? 形の違い、樹種など…
- * 森の歴史 (森の深さや構成、枯れているもの…)
- * 周囲の様子 (鳥や獣の気配 声 音…)

2) 近づいて見る

- * 近づくことで見えてくるもの、見えなくなるもの
- * 木の階層 (高木、次に高い木 低木、下生え…)
- * 木の種類、肌、葉、花、実、コケ、動物(野鳥や昆虫など)…
- * 匂い 音 触った感じ、湿気・乾き…

3) 上下も見る

- * 上を見る (空の色、雲、木の枝の張り方や形)
- * 下を見てみる (落ち葉、木の実、腐葉、キノコ、生きもの)

4) 落ち葉の下を見る (枯葉の色・形・手触り・匂い・湿り・生きもの)

全体を見る 細部を見る

4. 色々な自然の見方

- 1) 全体構造をみる(絵に書いてみる)
- 2) 近づいてみる(左右上下)
- 3) 五感を使う(見る、聞く、匂う、味わう、触ってみる)
- 4) 目の位置を変えてみる(座る、腹ばい、仰向いてみる)
- 5) ルーペで大きくしてみる
- 6) 言葉で書いてみる(詩や俳句、歌)
- 7) 観察したことを分かち合う(1人の目より多くの目)
- 8) 季節や時間を変えてみる
- 9) 名前にこだわらない

見方を変えると色々な自然が見えてくる

5. 何のために自然観察をするのか？

■ 自然を見る楽しみ

読書や音楽鑑賞などと同じ、自然の景色や草木の花や実紅葉など美しさに触れ自然の不思議や面白さを知る喜び

■ 自然を知る

自然に親しむことを通じて色々な生きものがあることを知る

■ 自然観察の道は様々な分野に通じている

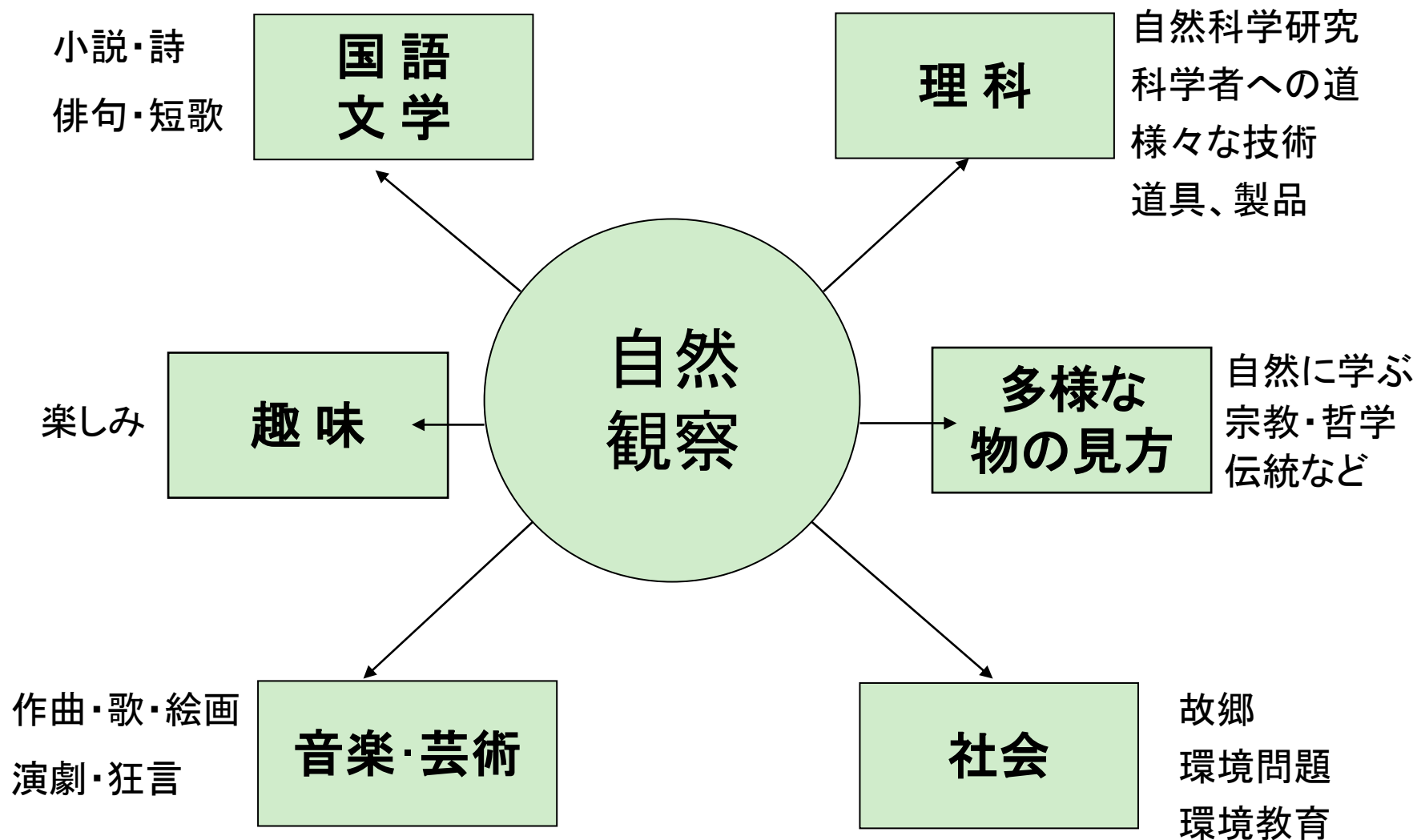
科学・音楽・絵画・文学・工業・環境・多様なものの見方

■ 自然が人を育てる

自然に命を見る、畏れや尊敬、冒険・恐怖、故郷...

自然に興味を持ち 自然を知ると 行動するようになる

6. 自然観察は色々な道に通じている



人は自然からあらゆることを学んできた

7.自然観察の道具など

- 1.ルーペ(8～10倍)
- 2.双眼鏡(8～10倍)
- 3.カメラ
- 4.フィルムケースやジップロック付ポリ袋
- 5.フィールドノート
- 6.ポケット図鑑
- 7.筆記具
- 8.救急セット….

飽くまで一例です 無理のない範囲で必要と思うものを用意